

瓦の軽量化に成功

龍大研究室入居の企業

「炭素を混ぜるだけ」



炭素を混ぜることで軽量化した瓦を持つ大木社長（大津市・龍谷大学瀬田学舎）

龍谷大学瀬田学舎（大津市）の貸し研究室「レンタルラボ」に入居して

いる炭素新素材開発の大木工務（同市上田上中野町、大木武彦社長）がこのほど、炭素を混ぜて軽量化した瓦を開発した。国内外の関連業者から引き合いがあり、七月には

発売されるという。大木工務は一九九七年に同ラボに入居。二〇〇〇年から瓦の研究を始めた。阪神大震災以降、家屋崩壊をもたらした瓦の重さが問題視されている

ことに着目。間伐材などの炭を約一六〇〇度の高温で焼いて粒状にし、瓦の材料に混ぜ込む方法で、瓦の軽量化を実現した。現在普及している瓦

（一枚約四・七キ）と比較すると、炭素を15%混入すると三・三キ、20%混入なら二・四キとほぼ半分の軽さになる。炭素の混入量が増えれば強度は低下するが、混入30%までなら従来と強度は変わらないという。熱伝導も良くなり、融雪などの効果もある。

従来品より製造コストはやや割高だが、色が長持ちする利点もあり、大木社長は「瓦に炭素を混ぜるだけで、誰も気づかなかった方法」と自信をみせている。